

報道機関 各位

熊本大学

「TSMC と半導体は熊本・日本を救うか？ - 産業論と地域経済の視点から」  
シンポジウム開催のお知らせ

熊本大学法学部および同大学院人文社会科学研究部（法学系）は、令和2年度にシンポジウム「被害者分断の克服に向けて」を開催して以降、毎年度約1回のペースで【熊本で生じた社会的課題】に関わるシンポジウムを開催しています。今回は、第6弾として、標題シンポジウムを企画しました。

本シンポジウムでは、経済学、地域経済、経済地理、国際経済をご専門とする方々をパネリストとして迎え、半導体を巡る日本経済と熊本の現状、そして将来を成功シナリオに導くために必要なものとは何か、について考えていきます。本シンポジウムが半導体という先端技術を巡る社会経済問題を扱うことで、文系・理系や産官学の枠を超えた、活発で建設的な議論のきっかけになればと考えています。

ご関心をお持ちのメディアの皆様におかれましては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、取材にお越しいただけますと幸いです。

なお、取材をご希望の際は、事前に以下の問い合わせ先にご連絡をお願いいたします。

記

- 【日時】：令和6年10月26日(土) 14:00～17:00  
(13:30開場予定、対面実施となります。)
- 【場所】熊本大学黒髪北キャンパス文法棟本館2階A1教室  
(熊本市中央区黒髪2丁目40番1号) (別添地図参照)
- 【対象】学生、一般の方(興味がある方はどなたでも)
- 【参加費】無料

登壇者：(あいうえお順)

- ・岡野秀之氏 - (九州経済調査協会常務理事兼事業開発部長)
- ・鹿嶋洋氏 - (熊本大学文学部教授、熊本大学大学院社会文化教育部長)
- ・金子勝氏 - (淑徳大学大学院客員教授、慶應義塾大学名誉教授)
- ・吉岡英美氏 - (熊本大学法学部教授)

司会／コーディネーター：島村玲雄(熊本大学法学部准教授)

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

<https://www.law.kumamoto-u.ac.jp/topics/2024/10/tsmc.php>

【お問い合わせ先】  
熊本大学法学部教授  
岡田 行雄  
E-Mail: yukio@kumamoto-u.ac.jp

熊本大学黒髪北地区



※お車でお越しの際は、入口から入り「北地区門衛所」にて手続き後、入構してください。車は空いている駐車場へ停めていただいても構いません。駐車の場合は有料です。

主催：熊本大学大学院人文社会科学部（法学系）

共催：熊本大学法学部、熊本大学大学院社会文化科学教育部

# TSMCと半導体は 熊本・日本を救うか？

～産業論と地域経済の視点から～

2024年10月26日(土) 14:00 ~ 17:00 (OPEN 13:30)

会場：熊本大学黒髪北キャンパス文法棟2階 A1 教室

司会／コーディネーター： 島村 玲雄（熊本大学法学部准教授）

パネリスト



岡野 秀之（九州経済調査協会常務理事  
兼事業開発部長）

報告題：シリコンアイランド九州の  
未来



鹿嶋 洋（熊本大学文学部教授、大学院社会  
文化科学教育部長）

報告題：半導体産業の立地・集積と  
地域の課題



金子 勝（淑徳大学大学院客員教授、慶應  
義塾大学名誉教授）

報告題：近未来の産業戦略について  
考える～川下の産業衰退と  
人材育成



吉岡 英美（熊本大学法学部教授）

報告題：台湾・韓国の半導体産業、  
その強さの解剖

（前半）14：00～15：30 各パネリスト報告

（後半）15：40～17：00 意見交換・質疑応答



【問い合わせ先】

熊本大学法学部教授 岡田行雄

E-mail：yukio@kumamoto-u.ac.jp



※参加費無料、申込不要



# シンポジウム

## 「TSMCと半導体は熊本・日本を救うか？」 ～産業論と地域経済の視点から～

### 概要

産業の衰退が懸念される日本経済において、2021年10月にTSMC (JASM) の日本工場建設が熊本県に決まって以降、熊本経済はめまぐるしく変化し、国内外から注目されています。TSMCの熊本県進出をきっかけに、関連企業が続々と熊本県だけでなく九州圏内に進出しており、経済効果は10年で20兆円とも試算され、地価の高騰、賃金水準の上昇など、「半導体バブル」に沸いています。熊本大学では半導体や先端産業に人材を輩出するための、新しい教育プログラムに力を入れ始めています。

しかし、官民一体で急速に進めるこのプロジェクトには、地域社会や経済への影響も大きく、自治体はインフラ整備をはじめ多くの課題に直面しています。そこで本シンポジウムでは、経済学、地域経済、経済地理、国際経済をご専門とする方々をパネリストとして迎え、半導体を巡る日本経済と熊本の現状、そして将来を成功シナリオに導くために必要なものとは何か、について考えていきます。本シンポジウムが半導体という先端技術を巡る社会経済問題を扱うことで、文系・理系や、産官学の枠を超えて、活発で建設的な議論のきっかけになればと考えています。

### パネリストのご紹介

#### 岡野 秀之 氏 (九州経済調査協会・常務理事、地域産業論・産業政策論)

半導体産業を切り口に、産業クラスターと地域産業について調査研究と政策立案に従事され、近年は、地域経済に関わる幅広い産業分野の調査研究でもご活躍されています。本シンポジウムでは、政府や地域の半導体産業政策と、九州の半導体産業の特徴やポテンシャルを踏まえて、シリコンアイランド九州の未来について、お話しいただきます。

#### 鹿嶋 洋 氏 (熊本大学文学部・教授、大学院社会文化科学教育部長、経済地理学)

製造業を中心とする地域の産業集積について多数のご業績があり、近年は熊本と九州圏内の半導体産業に関するご研究を多数発表されております。本シンポジウムでは、半導体産業が集積することによる地域への影響について、他の事例を交えながらお話しいただきます。

#### 金子 勝 氏 (淑徳大学大学院・客員教授、慶應義塾大学・名誉教授、財政学・制度の経済学)

財政学・地方財政論を出発点に、歴史・制度論的なアプローチから、現代日本の政治経済に関する著作を多数発表され、テレビ・ラジオ・ネットメディアなどのメディアでもご活躍されています。本シンポジウムでは、今日の世界と日本の経済の動向から、産業論から半導体産業の現状と展望についてお話しいただきます。

#### 吉岡 英美 氏 (熊本大学法学部・教授、国際経済・経済政策)

サムスン電子などの韓国の半導体産業について多数のご業績があり、半導体産業を経営論、産業政策、国際経済など多角的に分析した研究を発表されています。本シンポジウムでは、韓国・台湾の半導体産業の歴史的背景と政策についてお話しいただきます。

司会／コーディネーター：島村玲雄 (熊本大学法学部准教授、財政学・地方財政論)



•黒髪北地区  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

【交通案内】

JR熊本駅から	(2番のりば) 産交バス等:楠団地、光の森産交行き等(子飼経由)「熊本大学前」下車
JR上熊本駅から	(1番のりば) 都市バス:第一環状線、昭和町線(子飼橋経由)「子飼橋」下車徒歩10分
JR竜田口駅から	産交バス:桜町バスターミナル行き「熊本大学前」下車
桜町バスターミナルから	(16番のりば、E) 産交バス:楠団地、光の森産交行き等(子飼経由)「熊本大学前」下車